

第五章 本部活動

一、支部長會議

本部は全國支部との緊密なる聯絡を求むるため、九月三十日午後二時より東京芝公園協調會館に於て全國支部長協議會を開催した。この協議には特に全國中央委員の参加を乞ひ共同協議會としたが、それは勿論正式の中央委員會ではない。當日参加したる支部數五十餘支部本部を併せて出席人員八十名に達した。鈴木文治氏を議長に推し、議事を進めた。當日協議したる主なる議題は

- (一) 電氣爭議運動方針に關する件
- (二) 本部支部聯絡に關する件
- (三) 無産政黨合同に關する件
- (四) 支部提出協議事項
- (五) 農民運動に關する件
- (六) 俸給生活者運動に關する件
- (七) 黨會計充實に關する件

以上の内無産政黨合同問題に關する協議並に決議事項に就ては「戰線統一問題」に於て報告した通りであるが、黨會計充實に關する協議に於て決議したる事項の内、地方選舉のために特に要した本部費にして負債となつてゐるものを消却する目的を以て、各支部は金十圓を本部に醸出するの件は、この聯絡協議會の得たる一つの賜物であつた。その負擔は小額ではあつたが、黨員のための支出は黨員が進んでこれを負擔すると云ふ協同的精神を具體化した意味に於て特筆すべきものであつた。

この協議會は黨則に規定せられた協議會ではないから、それによる決議は強制力を持つものではないが、本部支部間の聯絡を謀る上に於て多大の効果を擧げることが出来た。

當日安部中央執行委員長は病後初めて吾等の前にその元氣な姿を見せたが、一同熱烈なる拍手を以て之を迎へた。

二、各部報告

(イ) 教育部——その主なる事蹟は「民衆政治學校」の開講である。七月一日より七月七日に亘る一週間を期して、總同盟本部教室に於て開催したが、全國各支部より出京し聴講した生徒は五十名(定員)を突破した。講師は吾黨幹部又は密接なる關係をもつ名士に限定し、吾黨の精神とその政策とを解説高揚した。

(ロ) 機關紙部——立秋不幸にも財政難に原因して吾黨機關紙「社會民衆新聞」は一時休刊の止むなきに至つたが、中央執行委員會はその後鋭意その復活に努力し全國各支部の熱心なる協力支持を求め、遂に十二月十日を期して再刊第一號を發行せしむるに至つた。再刊號はその紙面の半數を本部報告、並に支部報告を詳細に記録する點にその特色をもつてゐる。之によつて本部支部間の聯絡は一層完全となり、且吾黨黨勢擴張の有力なる武器が再び提供さるゝに至つた。

(ハ) 出版部——パンフレットとして發行したるものは——

- 一、「俸給生活者の雇傭條件はかくの如くあらねばならぬ」(小池四郎著)
 - 二、「徵兵保險と兵役税」(松下芳男著)
 - 三、「外交を國民の手に奪取せよ」(宮崎龍介、小池四郎著)
 - 四、「小選舉區制は果して政界を安定せしむるか」(小池四郎著)
- であるが、我黨の傍示出版機關たる書齋青雲閣より尨大なる計畫たる「民衆政治講座」全二十四巻の刊行に着手した尙。同書齋より單行本「社會運動に於ける現實主義」(赤松克麿著)を發行した。

(ニ) 青年部